



メインスローガン

次代につなぐ 平和の願い! みんなでつくろう 支え合う社会と確かな未来を!

「第96回鳥取県メーデー大会」に2,800人が結集!

中央大会(西部)



中央大会
山口一樹実行委員長(左)のかけ声で「団結がんばろう!」を三唱

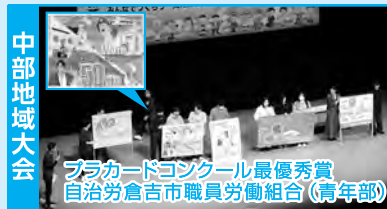


東部地域大会



元気にデモ行進に出発!

中部地域大会



プラカードコンクール最優秀賞
自治労倉吉市職員労働組合(青年部)

4月26日(土)、「JR米子駅前だんだん広場」で開催した中央大会に800人、「とりぎん文化会館」開催の東部地域大会には900人、「エースバック未来中心」開催の中部地域大会に1,100人の組合員や働く仲間、組合OB・OG、そして推薦議員のみなさんが参加して「第96回鳥取県メーデー大会」を開催しました。

鳥取県中央大会は、式典前段にデモ行進を行い、10時30分から、住みます芸人「ほのまる」の二人による進行で式典をスタートしました。

デモ行進

米子市公会堂前庭に集合した参加者は「すべての労働者の処遇を改善するぞー」などのシュプレヒコールで、春闘の波及とメーデーの意義を市民へアピールしながらデモ行進を行いました。

オープニングセレモニー

式典会場の「だんだん広場」では、地元「米子がいな太鼓就将子供連」による元気いっぱい太鼓演奏でデモ行進参加者を迎えました。

式典&イベント

主催者あいさつ(抜粋)

山口一樹実行委員長(会長)

2025春闘交渉の中間集計(4月17日時点)は昨年に続いて高水準だったが、物価上昇で実質賃金アップには至っていない。雇用と暮らしを守るため、賃上げムードを継続させなければならぬ。

来賓あいさつ

行政や推薦議員、労働福祉事業団体等より17人の来賓のみなさんに駆けつけていただき、代表して次の4人に連帯のあいさつをいただきました。
・鳥取県 亀井一賀(かずよし) 副知事

鳥取労働局 山下禎博(よしひろ) 局長
立憲民主党鳥取県総支部連合会 興治英夫代表(県議会議員)
前衆議院議員 湯原俊二さん

メーデースローガン採択他

・メーデースローガン提案
住みます芸人「ほのまる」

・メーデー宣言(案)提案
女性委員会 小谷くみこ委員長

・特別決議(案)提案
青年委員会 塚田尚矢副委員長

それぞれを参加者全員の拍手で採択した後、山口実行委員長の音頭で「団結がんばろう」を三唱し式典を終りました。

イベント

続いて「プラカードコンテスト」の表彰を行い、最後に参加者が楽しみにしていた「お楽しみ大抽選会」を行いました。加盟労働組合等から様々な景品が提供され、西部地協青女フォーラム役員が抽選を行いました。当選番号が発表される度に一喜一憂が見られ、にぎやかな大会となりました。抽選会で景品が当たったみなさんおめでとうございます。

参加者のみなさんには、福祉作業所の物販やフードドライブなど多数のご協力をいただきましたありがとうございました。

ご協力ありがとうございました

○フードドライブ 米・缶詰やお菓子など48点が寄せられました。(中央28点・東部14点・中部6点)

○大船渡市山林火災義援金 ... 「大船渡市山林火災」で被災された方々への支援カンパ(東部・中部会場/6,175円)に取り組みました。

フォトニュースもご覧ください

■特集 2025春季生活闘争■

2025春季生活闘争【中間まとめ】発表

連合鳥取2025春季生活闘争 要求・回答・妥結状況 【2025.4.17現在集計】

1.賃金要求提出状況

※昨年同時期(2024.4.18)と比較

登録組合数		2025春闘：67組合			2024春闘：67組合			◆提出せず		2025春闘		2024春闘		◆人勧準拠		2025春闘		2024春闘		◆組合員の賃金実態把握											
◆提出した	2025春闘						2024春闘						体系維持分を確認	組合数		2		1			組合数		0		2			把握している		56	
	【賃金関係】 調査対象：102組合						【賃金関係】 調査対象：106組合							組合員		397		9			組合員		0		84			把握していない		7	
	平均方式			個別方式			合 計			平均方式				個別方式			合 計				平均方式			個別方式				合 計			
	組合数	57	8	65	53	10	63	組合員	8,522	1,345	9,867	8,612		1,923	10,535	組合数	0	1	組合員		0	20	組合数	47	51	確立している		21	確立していない	40	

2. 要求状況 ※平均賃上げ方式（体系維持相当+賃金改善） ※加重平均

平均賃上げ方式			2025春闘						2024春闘						昨年対比			
			組合数	組合員数	体系維持分額		賃金改善分額		合計		組合数	組合員数	体系維持分額				賃金改善分額	
					額	率	額	率	額	率			額	率	額	率		
	従業員	計	48	6,675	4,133	13,813	16,998	6.69	41	6,720	4,178	11,555	15,467	6.07	1,531	0.62		
	300人以上		12	4,111	4,641	13,201	16,604	6.37	11	4,232	4,596	12,311	16,408	6.18	196	0.19		
	299～100人		15	1,962	3,466	14,596	18,061	7.20	16	2,075	3,322	10,259	13,751	5.91	4,310	1.29		
	99人以下		21	602	3,793	14,333	16,155	6.90	14	413	4,045	9,404	13,507	5.19	2,648	1.71		

3. 回答・妥結状況 ※平均賃上げ方式（体系維持相当+賃金改善） ※加重平均

平均賃上げ方式			2025春闘				2024春闘				昨年対比	
			組合数	組合員数	合計		組合数	組合員数	合計			
					額	率			額	率		
加重平均	従業員	計	32	5,211	13,248	4.86	29	5,561	14,011	5.15	▲763	▲0.29
	300人以上		9	3,527	14,582	5.06	8	3,465	16,476	5.86	▲1,894	▲0.80
	299～100人		10	1,319	11,224	4.78	14	1,871	10,247	3.99	977	0.79
	99人以下		13	365	7,679	2.89	7	225	6,660	2.69	1,019	0.20

連合鳥取は、4月18日（金）、県政記者クラブ（鳥取県庁内）で、2025春季生活闘争の中間回答集計結果について記者会見を行いました。

■要求・回答妥結状況(4月17日現在)

連合鳥取に加盟する調査対象民間組合102組合のうち65組合が要求を提出しました。

現時点で47組合が回答・妥結を得ており、平均賃上げ方式で集計可能な32組合の賃上げ額は13,248円（賃上げ率4.86％）となっています。これは、過去最高となった昨年と同等の高い水準であり、特に小規模企業では昨年以上の引き上げ額が実現しています。

昨年と同一組合で比較可能な29組合に限ると、平均賃上げ額は11,219円（昨年同時期10,022円、+1,197円）となり、特に100～299人規模の組合では2,819円の増額が確認されています。

また、回答・妥結した47組合のうち、ベースアップを獲得した組合は、42組合（昨年40組合）と前年を上回る結果となりました。

さらに、有期・短時間・契約社員等の処遇改善に向けた取り組みを、昨年に引き続き多くの組合で進められており、時給の引上げや処遇改善に関する前向きな回答が得られています。

今後も、企業の状況を注視しながら、雇用形態を問わず定期昇給相当（賃金カーブ維持相当）分の確保を前提とした賃金引き上げをめざし、価格転嫁を進めることで、経済の持続的成長の実現に向けた粘り強い交渉を続けていきましょう。

■今後の展開について

連合鳥取は、正規労働者、有期・短時間・派遣労働者、組織・未組織を問わず、すべての働く者の「底上げ」「底支え」「格差是正」をめざした取り組みを行うこと、また、サプライチェーン全体での適切な価格転嫁・適正取引の実現をめざし「月例賃金の継続的な引き上げ」「人への投資」「持続的な経済成長と分配構造の転換」を追及します。先行きの不透明感が増している状況ですが、引き続き構成組織一体となり、県内すべての労働者の処遇改善を実現するための牽引役を果たしていきます。



記者クラブで説明する
山口会長(右)と河村事務局長

伯耆町議会議員選挙 結果

4月15日(火)に告示された伯耆町議会議員選挙は、届け出が定数内であったため、連合鳥取推薦の大森英一さんが無投票で再選を果たしました。

連合鳥取推薦候補者のためご尽力いただきましたみなさんに心より感謝申し上げます。

当選 おおもり えいち 大森 英一 (推薦依頼組織/立憲民主党・部落解放同盟)



国政選挙を見据えた推薦議員団との連携に向けて —連合鳥取「推薦議員団会議」を開催—

連合鳥取は、4月17日(木)、推薦議員20人と連合鳥取役員23人、そして、次期衆議院議員選挙に連合鳥取が推薦決定している湯原俊二さんが出席し、「推薦議員団会議」を白兔会館(鳥取市)で開催しました。

連合鳥取の山口一樹会長のあいさつ、推薦議員団を代表して立憲民主党鳥取県総支部連合会の興治英夫代表(鳥取県議会議員)のあいさつの後、「2025年度 連合鳥取からの提言」を河村正之事務局長が提案しました。

【提言内容】

- ① 連合鳥取「第27回参議院議員選挙の基本方針」について
- ② 「連合鳥取政治塾(仮称)」の立ち上げについて
- ③ 推薦議員団との連携強化について 他

今年7月予定の参議院議員選挙の立候補者が未定という状況での開催となり、当初予定していた選挙区対応の審議はできませんでしたが、推薦議員のみなさんからは、「各議員が行う議会の一般質問のテーマ作成のために、選挙区在住の組合員のみなさんとの意見交換」や「ジェンダー平等の取り組みとして女性組合員の選挙に関する意見交換」を、連合鳥取のみなさんと取り組んでいきたい等の意見をいただきました。また、前回の衆議院議員選挙鳥取1区について「鳥取1区で候補者を擁立でき、県民のみなさんに選択肢を示すことができたが、もう少し早くから選挙戦に向かいたかった」との反省意見もあり、河村事務局長は「提起している『政治塾』で選挙に関わる人を増やしていくことが重要と考えている。今までの活動に一步、二歩、プラスしていかなければならない」と述べ、今後の取り組みの強化を呼びかけました。

その後、出席議員全員から日頃の活動状況や課題について詳しく説明いただき、湯原俊二さんからは現在の世界情勢や政権の課題等について報告がありました。



連合の「選択的夫婦別姓制度の実現を求める請願署名活動」にご協力を！ —選択的夫婦別姓制度— 希望する人が自分の姓を使い続けられる社会の実現に向けて

**結婚の際、姓を変えなければ
ならないことに対し、こんな声があるよ。**

- 姓が変わって自分ではなくなったように感じた
- 姓が変わって業績や研究実績などのキャリアが分断されてしまった...
- 一人っ子だから自分の姓を変えたくないよ~
- 銀行や免許証など姓の変更手続きが面倒!



夫婦同姓にするか、別姓にするかを選択できる制度が「選択的夫婦別姓制度」。

実は、結婚の際どちらかが姓を変えなければならない国は日本だけって知ってた？

20代男性の5人に1人が「結婚する際、いずれか一方が姓を変えなければならないことが結婚の妨げになる」と考えているよ。

【連合「夫婦別姓に関する調査2025」より】

Q1. 選択的夫婦別姓制度ってどんな制度なの？

希望する人が、結婚後も結婚前の姓を名乗り続けることができるようにする制度。あくまで「選択」なので、夫婦別姓を強要するものではなく、夫婦同姓を排除する制度でもないよ。

Q2. 旧姓の通称使用拡大ではダメなの？

旧姓の通称使用拡大では、パスポートをはじめ国際社会には通用しないし、そもそも人権尊重という要請にも応えることができないんだよ。

連合は「姓のあり方は個人の尊厳や人権に

かわる重要な問題」と考え、

「選択的夫婦別姓制度実現」に向けて取り組んでいます

ご協力をお願いします

産別の取り組みとして現在、請願署名
(衆議院議長宛・参議院議長宛の2種類)に
取り組んでいます
最終集約日/5月31日(土)



湯原 俊二 — 緑肥の想い —

世界幸福度ランキングで 日本は55位に低下

国連の報告書による「世界幸福度ランキング」で日本は55位に低下しました。貧富の格差や地域間格差を拡大させるアベノミクス新自由主義的な国づくりでは国民の暮らしは良くなりません。様々な分野で政策の転換が必要です。

例えば、コメの高騰が続いていますが、中山間地域(山あい)の稲作農家が、全国の稲作耕地面積の4割、稲作農家数の4割、稲作産出額の4割を占めています。戸別所得補償制度を復活し中山間地域の稲作農家を守ることが、食糧の安心安全供給、農村の維持、国土保全、ダム何個分もの水の涵養にもつながります。

また、少子化・人口減少が加速していますが、若者の非正規雇用が増加しており、将来設計が立てられず未婚が増え、結果的に少子化の一因になっています。正規雇用と同じ仕事を一定期間すれば正規雇用にする労働法制に改善をすべきです。また中小零細企業に正社員化を促すために、正社員化した時の経営者側が負担する社会保険料の減免をする政策も必要です。

この他にも、子育て教育支援、最低年金の引き上げ、自治体へ権限財源の移譲、企業団体献金の禁止など政権交代で国づくりを抜本的に変えなければなりません。夏の参議院選挙では、みなさんの思いを結集していただきますようお願い申し上げます。



連合鳥取推薦議員団会議
(2025.4.17)



元気に辻立ちしています!!
(2025.4.24)



「第96回鳥取県中央スター大会」に参加
(2025.4.26/米子市)



湯原さんのホームページ・Facebookもご覧ください

湯原俊二

検索

二次元コードからも
つながります▶

“ザ・議員”

は ま だ た え こ 浜田 妙子 鳥取県議会議員

物価高が続く、国も世界も政治への不安と混乱の中で安心と安定が強く求められ、改めて政治の、為政者の質が問われます。

そんな中で2月議会では次の質問をしました。

一つは国が第7次エネルギー基本計画を出し、再エネ依存度4～5割と示したことに對して、福島原発事故を経験したことから、鳥取県は再エネ自給率100%をめざすべきだと訴えました。

2つ目は発達障害等、療育の必要な子が増え、保護者も教育現場も問題を抱え、専門的支援が必要だと問いました。

再エネ・省エネについては「鳥取県が国をリードして力を発揮する」、また、子どもたちのためには「家庭や現場の声にしっかり耳を傾け改善する」との答弁がありました。

いずれも生活の根幹に関わる課題です。ともに注視をお願いします。



議会の様子

ふ く い や す お 福井 康夫 倉吉市議会議員

【公共施設のLED化について】

地球温暖化対策として再生可能エネルギーの導入が進んでいます。

太陽光発電の利用や、リサイクルの推進などの本市前期基本計画の実績では、二酸化炭素の排出抑制のための、電気・LPガス・ガソリン・灯油・重油等の使用量削減に取り組み、省エネルギー・省資源につとめてきましたが、二酸化炭素排出量は増加したと報告されています。

この度、「水銀に関する水俣条約」により従来の蛍光灯の製造がなくなるという、いわゆる2027年問題に関して、学校や体育施設、保育園など、また公園・公営住宅・消防などの公共施設においても、「LED化」への取り組みが避けて通れない課題であり、倉吉市の取り組みについて質しました。

引き続き、市政に対して連合鳥取の政策・制度要求が反映されるよう取り組みを進めてまいります。



議場にて一般質問

この春、娘が高校に入学した。私の母校に無事合格を果たしてくれたおかげで、保護者説明会や入学式で幾度となく母校を訪れる機会に恵まれた▼卒業して20年以上経った今でも、当時の先生がまだ何人か残っておられ、一瞬にして当時の記憶が蘇ったりもした。高校時代はやるべきこと、やりたいことの狭間で悩みながらも、それでも毎日楽しかった。きっと娘も新しい出会い・環境の中で喜び、悩み、時に落ち込み、挫折を感じることもあるだろうが、今しかないこの時間を一杯過ごしてほしいと、真新しい制服に袖を通した娘の写真を取りながらしみじみ思った▼しかし、物価高騰の波はこんな明るい気持ちを引き飛ばすほどの衝撃だ。入学準備に必要な費用は、コロナ禍を経て、タブレットや電子辞書の購入も加わり、5年前の息子の時とは桁違いに高額になっていた。ひととき蘇ったノスタルジックな感覚は、一瞬にして消え去り、現実を引き戻された出来事であった。

(杉)



てんぐとんぐ



再生紙を使用しています